

大阪市立大学大学院経営学研究科長・商学部長 略歴

- 1 氏 名 鈴木 洋太郎 (すずき ようたろう)
- 2 年 齢 53 歳  
※平成 26 年 2 月 6 日現在、以降同様
- 2 年 齢 53 歳
- 3 専門分野 国際産業立地論
- 4 任 期 2 年間 (平成 25 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日まで)
- 5 学 位 博士 (経済学) (九州大学)
- 6 最終学歴 九州大学大学院経済学研究科博士課程(経済工学専攻)単位取得退学
- 7 職 歴 平成 2 年 4 月 大阪市立大学商学部助手  
平成 3 年 10 月 大阪市立大学商学部講師  
平成 5 年 10 月 大阪市立大学商学部助教授  
平成 12 年 10 月 大阪市立大学商学部教授  
平成 13 年 4 月 大阪市立大学商学部・大学院経営学研究科教授  
平成 14 年 4 月 大阪市立大学大学院経営学研究科・商学部教授  
平成 18 年 4 月～平成 19 年 3 月 大阪市立大学教育研究評議員  
平成 19 年 4 月 大阪市立大学大学院経営学研究科副研究科長・  
副学部長  
平成 20 年 4 月～平成 22 年 3 月 大阪市立大学教務担当部長  
平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月 大阪市立大学教育研究評議員  
平成 25 年 4 月～ 大阪市立大学大学院経営学研究科研究科長・  
学部長

現在に至る

8 主な業績 (著書・論文)

- 著書 (単著) 『多国籍企業の立地と世界経済』 大明堂、1994 年  
著書 (単著) 『産業立地のグローバル化』 大明堂、1999 年  
著書 (単著) 『マネジメントの経済学』 ミネルヴァ書房、2003 年  
著書 (単著) 『産業立地論』 原書房、2009 年

大阪市立大学大学院経済学研究科長・経済学部長 略歴

- 1 氏 名 森 誠 (もり まこと)
- 2 年 齢 58 歳
- 3 専門分野 経済変動論
- 4 任 期 2 年間 (平成 25 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日まで)
- 5 学 位 博士 (経済学) (大阪市立大学)
- 6 最終学歴 大阪市立大学大学院経済学研究科 後期博士課程単位取得退学
- 7 職 歴 昭和 57 年 4 月 大阪市立大学経済学部助手  
昭和 60 年 4 月 大阪市立大学経済学部講師  
平成 4 年 4 月 大阪市立大学経済学部助教授  
平成 13 年 4 月 大阪市立大学経済学部・大学院経済学研究科教授  
平成 14 年 4 月 大阪市立大学大学院経済学研究科・経済学部教授  
平成 19 年 4 月～平成 20 年 3 月 大阪市立大学教育研究評議員  
現在に至る
- 8 主な業績 (著書・論文)
  - 著書 (単著) 『長期にわたる最適化とケインズ経済学』 晃洋書房、2011 年
  - 著書 (単著) 「財政政策は有効か？」 『21 世紀の経済政策』 所収、日本評論社、1999 年
  - 著書 (共著) 「資産の平等配分は社会的余剰を最大にするか？」 『経済学雑誌』 日本評論社、1994 年
  - 著書 (単著) 「短期ナッシュ均衡と長期ナッシュ均衡—内生的成長モデルに対する Repeated Game の適用—」 『経済学雑誌』 日本評論社、1991 年

大阪市立大学大学院法学研究科長・法学部長 略歴

- 1 氏 名 守矢 健一（もりや けんいち）
- 2 年 齢 46 歳
- 3 専門分野 ドイツ法
- 4 任 期 1 年間（平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日）
- 5 学 位 法学博士（Dr.juris, フランクフルト大学）
- 6 最終学歴 東京大学大学院法学政治学研究科博士課程中退
- 7 職 歴 平成 6 年 4 月 ドイツ、マックス=プランク=ヨーロッパ  
法史研究所客員研究員  
平成 9 年 4 月 大阪市立大学法学部助教授  
平成 13 年 4 月 大阪市立大学法学部・大学院法学研究科助教授  
平成 14 年 4 月 大阪市立大学大学院法学研究科・法学部助教授  
平成 19 年 4 月 大阪市立大学大学院法学研究科・法学部准教授  
平成 20 年 4 月 大阪市立大学大学院法学研究科・法学部教授  
平成 21 年 8 月 マックス=ヨーロッパ法史研究所研究員  
（フンボルト財団奨学研究者）  
平成 22 年 11 月～平成 23 年 9 月 フランクフルト大学法学部  
客員教授  
平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月 大阪市立大学教育研究評議員  
現在に至る
- 8 主な業績（著書・論文）
  - 著書(単著) 『Savnys Gedanke im Recht des Besitzes』 Vittorio Klostermann GmbH、2003 年
  - 著書(共著 守矢健一、村上淳一、ハンス・ペーター・マルチュケ) 『ドイツ法入門』改訂第 8 版、有斐閣、2012 年
  - 著書(共編著 守矢健一、西谷敏、松本博之) 『インターネット・情報社会と法——日独シンポジウム』信山社、2002 年
  - 著書(共編著 守矢健一、西谷敏、松本博之) 『団体・組織と法——日独シンポジウム』信山社、2006 年
  - 著書(共編著 守矢健一、松本博之、野田昌吾) 『法発展における法ドグマーティクの意義』信山社、2011 年
  - 論文(単著) 「『学問の自由』に係る日本の憲法解釈論の性格をめぐって」法学雑誌 54 卷 376-408 頁所収、2007 年
  - 論文(単著) Zum römischen Gewohnheitsrecht bei Georg Friedrich Puchta, in: ZRG rom. Abt. 128, 298-338, 2011 年

大阪市立大学大学院文学研究科長・文学部長 略歴

- 1 氏 名 池上 知子 (いけがみ ともこ)
- 2 年 齢 58 歳
- 3 専門分野 社会心理学
- 4 任 期 2 年間 (平成 25 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日まで)
- 5 学 位 博士 (教育学) (京都大学)
- 6 最終学歴 京都大学大学院教育学研究科 博士後期課程学修認定退学
- 7 職 歴 昭和 61 年 4 月 愛知県立芸術大学音楽学部専任講師  
平成元年 4 月 愛知教育大学教育学部講師  
平成 3 年 1 月 愛知教育大学教育学部助教授  
平成 14 年 4 月 愛知教育大学教育学部教授  
平成 17 年 4 月 大阪市立大学大学院文学研究科・文学部教授  
平成 23 年 4 月～平成 25 年 3 月 大阪市立大学大学院文学研究科  
副研究科長・副学部長  
平成 25 年 4 月～ 大阪市立大学大学院文学研究科研究科長・  
文学部長  
現在に至る
- 8 主な業績 (著書・論文)
  - 著書 (単著) 『対人認知の心的機構 -ポスト認知モデルへの提言-』 風間書房、  
1996 年
  - 著書 (共著) 『社会的認知の心理学 -社会を描く心のはたらき-』 ナカニシヤ出版、  
2001 年
  - 著書 (単著) 『格差と序列の心理学 -平等主義のパラドクス-』 ミネルヴァ書房、  
2012 年
  - 論文 (単著) “State self-esteem as a moderator of negative mood effects on  
person impression.” *Journal of Experimental Social Psychology*,  
38, 1-13. Elsevier、2002 年
  - 論文 (共著) “Status hierarchy and the role of disidentification in  
discriminatory perception of outgroups.” *Japanese  
Psychological Research*, 49, 136-147. Blackwell、2007 年
  - 論文 (単著) “Precursors and consequences of ingroup disidentification:  
Status system beliefs and social identity.” *Identity: An  
International Journal of Theory and Research*, 10, 233-253.  
Psychology Press、2010 年

大阪市立大学大学院理学研究科長・理学部長 略歴

- 1 氏 名 保尊 隆享 (ほそん たかゆき)
- 2 年 齢 59 歳
- 3 専門分野 植物生理学
- 4 任 期 2 年間 (平成 25 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日まで)
- 5 学 位 理学博士 (東北大学)
- 6 最終学歴 東北大学大学院理学研究科 博士前期課程修了
- 7 職 歴 昭和 55 年 10 月 大阪教育大学教育学部 助手  
昭和 60 年 10 月 大阪市立大学理学部 助手  
平成 5 年 4 月 大阪市立大学理学部 助教授  
平成 12 年 10 月 大阪市立大学理学部 教授  
平成 13 年 4 月 大阪市立大学理学部・大学院理学研究科教授  
平成 14 年 4 月 大阪市立大学大学院理学研究科・理学部教授  
平成 21 年 10 月～平成 22 年 3 月 大阪市立大学教育研究評議員  
平成 25 年 4 月～ 大阪市立大学大学院理学研究科研究科長・  
理学部長  
現在に至る
- 8 主な業績 (著書・論文)  
原著論文 (共著) 『Growth stimulation in inflorescences of an Arabidopsis tubulin mutant under microgravity conditions in space』 Plant Biol. 16(S-1), 91-96, 2014.  
著書 (分担執筆) 『Cellulose: Structure and Properties, Derivatives and Industrial Uses』 Nova Science Publishers, 2010.  
総説 (共著) 『Cortical microtubules are responsible for gravity resistance in plants』 Plant Signal. Behav. 5, 752-754, 2010.  
総説 (共著) 『国際宇宙ステーション実験による植物の抗重力反応機構の解明』 生物工学 88, 292-295, 2010.  
総説 (単著) 『The mechanism and significance of gravity resistance in plants』 J. Gravit. Physiol. 13, 97-100, 2006.  
著書 (分担執筆) 『植物ホルモンの分子細胞生物学』 講談社, 2006  
総説 (共著) 『Signal perception, transduction, and response in gravity resistance. Another graviresponse in plants』 Adv. Space Res. 36, 1196-1202, 2005.  
総説 (単著) 『植物の抗重力反応ーシグナル受容, 変換・伝達, そして応答』 生物工学 83, 565-567, 2005.  
著書 (分担執筆) 『新版植物ホルモンのシグナル伝達ー生理機能からクロストークへ』 秀潤社, 2004.  
著書 (分担執筆) 『新訂 植物の生理』 放送大学教育振興会, 2004.

大阪市立大学大学院工学研究科長・工学部長 略歴

- 1 氏 名 日野 泰雄 (ひの やすお)
- 2 年 齢 62 歳
- 3 専門分野 都市基盤計画
- 4 任 期 2 年間 (平成 26 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日)
- 5 学 位 博士 (工学) (大阪市立大学)
- 6 最終学歴 大阪市立大学大学院工学研究科土木工学専攻 修士課程修了
- 7 職 歴 昭和 52 年 4 月 大阪市立大学工学部助手  
平成 3 年 4 月 大阪市立大学工学部講師  
平成 9 年 4 月 大阪市立大学工学部助教授  
平成 13 年 4 月 大阪市立大学工学部・大学院工学研究科教授  
平成 14 年 4 月 大阪市立大学大学院工学研究科・工学部教授  
平成 21 年 4 月～平成 24 年 3 月 大阪市立大学大学院工学研究科  
副研究科長・副学部長  
平成 24 年 4 月～ 大阪市立大学大学院工学研究科研究科長・  
学部長  
現在に至る
- 8 主な業績 (著書・論文)  
著書 (共著) 『交通システム』 (3, 7, 8 章) 国民科学社、1996 年、2003 年  
著書 (共著) 『地区交通計画 (土木学会編)』 (2.5 節, 3.1 節)、国民科学、1992 年  
著書 (共著) 『交通安全学 (大阪交通科学研究会編)』 (11 章)、企業開発センター、2000 年  
論文 (共著) 『協働型交通安全対策の活動事例の評価と課題に関する研究』 土木計画学研究・論文集、Vol. 24、pp. 791-796、2007 年  
論文 (共著) 『居住者ライフステージの変化に基づく住宅団地ライフサイクルのモデル化』 都市計画論文集、No. 43-3、pp. 493-498、2008 年  
論文 (共著) 『錯綜危険度からみた路側帯拡幅と中央線抹消施策の効果に関する研究』 交通工学研究発表会論文集、No. 29、pp. 25-28、2009 年  
論文 (共著) 『Quantify Benefits of Cycling Space Development in Jakarta』 Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol. 9, 16p、2011 年  
論文 (共著) 『児童生徒の自転車利用意識と交通安全教育の課題に関する調査研究』 土木計画学研究・論文集、Vol. 29、pp. 1185-1192、2012 年  
論文 (共著) 『中国主要都市での事例分析に基づく BRT システム導入効果の総合評価』 交通工学研究発表会論文報告集、No. 33、pp. 551-557、2013 年

大阪市立大学大学院医学研究科長・医学部長 略歴

- 1 氏 名 荒川 哲男 (あらかわ てつお)
- 2 年 齢 63 歳
- 3 専門分野 消化器内科学
- 4 任 期 2 年間 (平成 26 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日)
- 5 学 位 博士 (医学) (大阪市立大学)
- 6 最終学歴 大阪市立大学大学院医学研究科 修了
- 7 職 歴 昭和 56 年 4 月 大阪市立大学医学部助手  
昭和 62 年 10 月 大阪市立大学医学部講師  
平成 2 年 2 月 カリフォルニア大学アーバイン校  
医学部客員教授  
平成 5 年 1 月 大阪市立大学医学部助教授  
平成 12 年 10 月 大阪市立大学医学部教授  
平成 13 年 4 月 大阪市立大学医学部・大学院医学研究科教授  
平成 14 年 4 月 大阪市立大学大学院医学研究科・医学部教授  
平成 16 年 4 月 大阪市立大学医学部附属病院副院長  
平成 22 年 1 月 アリゾナ大学医学部客員教授  
平成 24 年 4 月～ 大阪市立大学大学院医学研究科研究科長・  
医学部長  
現在に至る
- 8 主な業績 (著書・論文)
  - 著書 (単著) Learning skills for gastrointestinal endoscopy. Karger, Basel Switzerland, 2006.
  - 論文 (共著) Anti-tumour necrosis factor agents reduce non-steroidal anti-inflammatory drug-induced small bowel injury in rheumatoid arthritis patients. Gut Online First, published on May 22, 2013
  - 論文 (共著) High mobility group box 1 promotes small intestinal damage induced by nonsteroidal anti-inflammatory drugs through Toll-like receptor 4. Am J Pathol. Jul;181(1):98-110, 2012
  - 論文 (共著) Quality of ulcer healing in gastrointestinal tract: its pathophysiology and clinical relevance. World J Gastroenterol. Sep 21;18(35):4811-22, 2012
  - 論文 (共著) Small intestinal injury caused by NSAIDs/aspirin: finding new from old. Curr Med Chem. 19(1):77-81, 2012.

大阪市立大学大学院看護学研究科長 略歴

- 1 氏 名 今中 基晴 (いまなか もとはる)
- 2 年 齢 59 歳
- 3 専門分野 産婦人科学
- 4 任 期 2 年間 (平成 25 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日まで)
- 5 学 位 博士 (医学) (大阪市立大学)
- 6 最終学歴 大阪市立大学医学部卒業
- 7 職 歴 平成 4 年 4 月 大阪市立大学医学部助手  
平成 5 年 10 月 大阪市立大学医学部講師  
平成 10 年 4 月 大阪市立大学看護短期大学部教授  
平成 16 年 4 月 大阪市立大学医学部・看護短期大学部教授  
平成 20 年 4 月 大阪市立大学大学院看護学研究科・医学部教授  
平成 20 年 4 月～平成 21 年 3 月 大阪市立大学教育研究評議員  
平成 22 年 4 月～ 大阪市立大学大学院看護学研究科研究科長  
現在に至る
- 8 主な業績 (著書・論文)
  - 論文 (共著) 『Premature rupture of the membranes managed with a new cervical catheter』 Lancet, 1(8390):1331-1332, 1984 年
  - 論文 (共著) 『Saline solution amnioinfusion for oligohydramnios after premature rupture of the membranes』 Am J Obstet Gynecol, 161(1):102-106, 1989 年
  - 論文 (共著) 『Transcervical amnioinfusion of antibiotics: A basic study for managing premature rupture of membranes』 Am J Obstet Gynecol, 158(1):23-27, 1988 年
  - 論文 (共著) 『Cyclic changes in the umbilical arterial flow in mono-chorionic, di-amniotic twin pregnancy』 Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol, 74(2):135-138, 2002 年
  - 論文 (共著) 『不妊患者における夫の精神的負担に関する意識調査 - 夫婦間の比較を中心に -』 日本受精着床学会雑誌, 28(2):439-444, 2011 年
  - 論文 (共著) 『不妊治療を受ける女性の負担感と就労に関する意識調査 (1) - 身体的負担感・精神的負担感・経済的負担感・時間的拘束感に -』 日本受精着床学会雑誌, 29(1):105-108, 2012 年
  - 論文 (共著) 『不妊治療を受ける女性の負担感と就労に関する意識調査 (2) - 就労環境と離職・転職を考える -』 日本受精着床学会雑誌, 29(1):109-113, 2012 年
  - 著書 (単著) 『母性看護学ワークノート』 メディカ出版、2006 年
  - 著書 (共著) 『母子感染』 金原出版、2010 年
  - 著書 (共著) 『看護のための臨床病理学』 南山堂、2011 年

大阪市立大学大学院生活科学研究科長・生活科学部長 略歴

- 1 氏 名 西川 禎一 (にしかわ よしかず)
- 2 年 齢 59 歳
- 3 専門分野 食・健康科学講座 環境健康科学分野
- 4 任 期 2年間 (平成26年4月1日から平成28年3月31日)
- 5 学 位 獣医学修士 (北海道大学)  
博士 (農学) (大阪府立大学)
- 6 最終学歴 大阪府立大学大学院農学研究科 修了
- 7 職 歴 昭和60年4月 大阪市立環境科学研究所研究員  
平成7年4月 大阪市立環境科学研究所研究主任  
平成11年4月 大阪市立大学生活科学部助教授  
平成13年4月 大阪市立大学生活科学部・大学院生活科学研究科助教授  
平成14年4月 大阪市立大学大学院生活科学研究科・生活科学部助教授  
平成17年4月 大阪市立大学大学院生活科学研究科・生活科学部教授  
平成24年4月～平成26年3月 大阪市立大学教育研究評議員  
現在に至る
- 8 主な業績 (著書・論文)  
著書 (共著) 『カット野菜品質・衛生管理ハンドブック』サイエンスフォーラム、2009年  
著書 (共著) 『Recent Advances on Model Hosts (Adv Exp Med Biol 710)』Springer Science, 2012  
著書 (編著) 『マスター食品衛生学』建帛社、2010年  
論文 (共著) 『Mechanism underlying prolongevity induced by bifidobacteria in *Caenorhabditis elegans*』Biogerontology, 2013  
論文 (共著) 『Specific properties of enteropathogenic *Escherichia coli* strains isolated from diarrheal patients: comparison with the strains from foods and fecal specimens of cattle, pigs, healthy carriers in Osaka City, Japan』Appl. Environ. Microbiol, 2013  
論文 (共著) 『Influence of lactic acid bacteria on longevity of *Caenorhabditis elegans* and the host defense to *Salmonella enterica* serovar Enteritidis』Appl. Environ. Microbiol, 2007

大阪市立大学大学院創造都市研究科長 略歴

- 1 氏 名 柏木 宏 (かしわぎ ひろし)
- 2 年 齢 60 歳
- 3 専門分野 経営学 (NPO マネジメント)
- 4 任 期 2 年間 (平成 26 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日)
- 5 学 位 学士 (文学) (同志社大学)
- 6 最終学歴 ラトガース大学労働研究科修士課程
- 7 職 歴 昭和 58 年 6 月 日系福祉権擁護協会  
昭和 60 年 4 月 日本太平洋資料ネットワーク理事  
平成 6 年 10 月 日本太平洋資料ネットワーク理事長  
平成 15 年 4 月 大阪市立大学大学院創造都市研究科教授  
現在に至る
- 8 主な業績 (著書・論文)
  - 著書 (単著) 『アメリカの外国人労働者』明石書店、1991 年
  - 著書 (共著) 『みんながマイノリティ』現代企画室、1992 年
  - 著書 (単著) 『企業経営と人権：アメリカに学ぶ社会貢献と NPO』解放出版社、1993 年
  - 著書 (共著) 『アメリカのなかの日本企業』日本評論社、1994 年
  - 著書 (編著) 『災害ボランティアと NPO：アメリカ最前線レポート』朝日新聞社、1995 年
  - 著書 (単著) 『ボランティア活動を考える：アメリカの事例から』岩波書店、1996 年
  - 著書 (編著) 『アメリカで仕事体験：NPO インターンシップの魅力』アルク、1998 年
  - 著書 (共著) 『NPO 時代の幕開け：アメリカの経験に学ぶ労働運動と NPO』第一書林、1998 年
  - 著書 (単著) 『アメリカ労働運動の挑戦：労働組合と NPO の世直し作戦』労働大学、1999 年
  - 著書 (単著) 『アメリカにおけるセクシュアル・ハラスメント』解放出版社、1999 年
  - 著書 (共著) 『アメリカの NPO：日本社会へのメッセージ』第一書林、2000 年
  - 著書 (共著) 『共生社会の創造と NPO』明石書店、2003 年
  - 著書 (単著) 『NPO マネジメントハンドブック』明石書店、2004 年
  - 著書 (単著) 『指定管理者制度と NPO』明石書店、2007 年
  - 著書 (単著) 『NPO と政治』明石書店、2008 年
  - 著書 (共著) 『創造経済と都市地域再生』大阪公立大学共同出版会、2011 年
  - 著書 (共著) 『創造経済と都市地域再生 2』大阪公立大学共同出版会、2012 年

## 大阪市立大学医学部附属病院長 略歴

- 1 氏 名 石河 修 (いしこ おさむ)
- 2 年 齢 66 歳
- 3 専門分野 女性病態医学 (産科婦人科学)
- 4 任 期 2 年間 (平成 26 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで)
- 5 学 位 博士 (医学) (大阪市立大学)
- 6 最終学歴 大阪市立大学医学部卒業
- 7 職 歴 昭和 55 年 4 月 大阪市立大学医学部助手  
昭和 62 年 4 月 大阪市立大学医学部講師  
平成 5 年 4 月 大阪市立大学医学部助教授  
平成 13 年 4 月 大阪市立大学医学部・大学院医学研究科助教授  
平成 14 年 4 月 大阪市立大学大学院医学研究科・医学部教授  
平成 18 年 4 月 大阪市立大学医学部附属病院副院長  
平成 22 年 4 月～平成 24 年 3 月 大阪市立大学大学院医学研究科  
研究科長・医学部長  
平成 24 年 4 月～ 公立大学法人大阪市立大学理事兼大阪市立  
大学医学部附属病院長

現在に至る

### 8 主な業績 (著書・論文)

- 論文 (共著) Anemia-inducing substance from plasma of patients with advanced malignant neoplasms. *Cancer Res.* 55:3623-3628. 1995
- 論文 (共著) Anemia-inducing substance (AIS) in advanced cancer: inhibitory effect of AIS on the function of erythrocytes and immunocompetent cells. *Jpn J Cancer Res.* 78:596-606. 1997
- 論文 (共著) Elimination of anemia-inducing substance by cyclic plasma perfusion of tumor-bearing rabbits. *Clin Cancer Res.* 5(9):2660-5. 1999
- 論文 (共著) Multiple organ failure of tumor-bearing rabbits in cancer cachexia is caused by apoptosis of normal organ cells. *Int J Oncol.* 34(1):61-7. 2009
- 論文 (共著) Mitotic arrest deficiency 2 induces carcinogenesis in mucinous ovarian tumors. *Oncol Lett.* 3(2):281-286. 2012